

波門高松一階見

上
船之部
下

ル 4

1992

2



門心
1992
卷 2

曉晴翁著
松川
半山画

淀川

兩岸
一覽

上船之卷

二册



采每游浪花必買船下激水
 味攬江山之勝未暇探沿江諸
 區也頃日鷄鳴舍主人被示此
 著烟又游浪華携而為行
 舟中披圖之間百里長堤

舟中披圖之間百里長堤

邗落祠觀石區舊據自邗
而送之ハ詳悉惜長流之
將盡也。陶家後謝而思之ス自
今及下激水人必携ハ一本蓋
主人之賜為多也。因テ慈通刻

送若夫賈人估客必便夜航
近江亦數為夢於嗟來賣
會聲ニ固勿論也。

安政丙辰三月飄ク也三人題

應需字陽書



凡例

此書の浪花より京師へ船ゆく登る淀川條の兩岸の地名と
初めを傍るる寺社及び名所古跡と有し且其風系絶倫
なるを其の旨と出し船客の興とる者
西岸と一圖よりうらん夏竦とよめりばとつど其委ふ
いづべ又たよ新報あり右の都の條一き地あり
右は美景あり右は川添の堤のさるも有て其景
風流さるるが故にゆれも船中より見らるる
骨々其順は一覽せしむされば景の二巻の上船のあと
うづ後の二巻の下船のあとと画く故に上船の巻は
下船の左より下船の巻は上船の左に心得べし又准之
船客これと聞しむべし船長は同様に西岸と委く知ぐ

美豆

淀の天橋の西風の里より則京街道の順路ありていづれ美豆の印牧とて既の
ありし也小金川より此西より水上凡廿六丁云入江野赤木和号と流る
後水 五月雨とつのはぬの湯とま外は湯もあつととあふ さがみ

朝のくづの上野より別家のきののけり且あがりつ 順徳院

木津川

水源いづれより出り山城赤東より出り水と合流し未だ淀川とあつ一名
長川といふ又泉川といふ東よりの流とつても同義決せば

淀大橋

右木津川よりい 間小橋 大橋の北より大橋と小橋の間より有

淀大渡

いづれ木津川印牧の西より北より流れ宇治川と合せり大河とこれと
毎いづれ木津川印牧の西より北より流れ宇治川と合せり大河とこれと

南へ通し大橋間小橋小橋と架させしむと豊太閤の御時木津川と
毎日木谷寺よりいづれ淀のりりといふのよとせし有

淀

大坂より瀬崎行屋九里あり 瀬崎密勘云淀 水のみ水のみがれ
やうとていふとすれん夫とて淀といふとすれん

淀大橋

五月雨

河へさよよ

渡の人

鞭石



船よそよ

声のけしき

稀くよ

ゆきゆき

ゆるる渡の

川さき

野城



木川落合

淀川

つるも桂川鴨川宇治川木津川水のあち合くくればよきとわらうらん

淀成

其初に岩成主税助がきづく前より其後豊公の清藤中成等とて

淀河

五畿内第一の大河にして六國の水を以て歸會に

河内伊賀

河水常流く其流難波津を往く舟ハ

昼夜

舟間断る城郭の汀より水車あてて波は随ひ翻々と

あづる

領主の茶亭橋上の往來の美景遠々として足びとて夏

あづる

又世に六の鯉の名産として味は美味なり高貴の献上する

城辺

の魚を用ひ故に常と遊獵と禁め

淀小橋

通舟の便より美豆なり此舟より水上九十二丁十間といふ

伊勢向宮

小舟の東より天照太神とまつ此は浮舟なり洪水の時とて

巨椋大池

伏見の池も長と二十九町幅十五町といふ

伏見

池より花洛といふ程二里日本紀より伏見と書り

東御所

文祿三年秀吉公所在此より町小築建後して西國より東國北國へとも

東御所

町数二百六十余町舎屋六千二百余軒と見より京原より

東御所

西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

東御所

東御所とて西の道と竹田御所といふは其宜しき

淀城
御茶屋

家の乃ハ

鯉のうきや

おとくき

梅室



白鳥

あけあしや

波の水

景



其二

漢河東望

帝王洲二

月素風上

瀨舟却訝

蓬窓猶有

月夜來白

雪滿汀洲

釋元皓

川風の菖蒲

ふとささり

溪の明

曲水

この橋り

新からよそ

溪の舟

柳室



其三

うらやま

及んば

新あま

万の

あま

冬降

西山雨晴
曉落花
漢津城頭
水車子
取萬斛春
巖垣彦明



其四

水車

後のうまの

修は

うまを

まは

うまを

あられぬもの

うま

まこも

まは

まは

うま

うま

うま

宗因

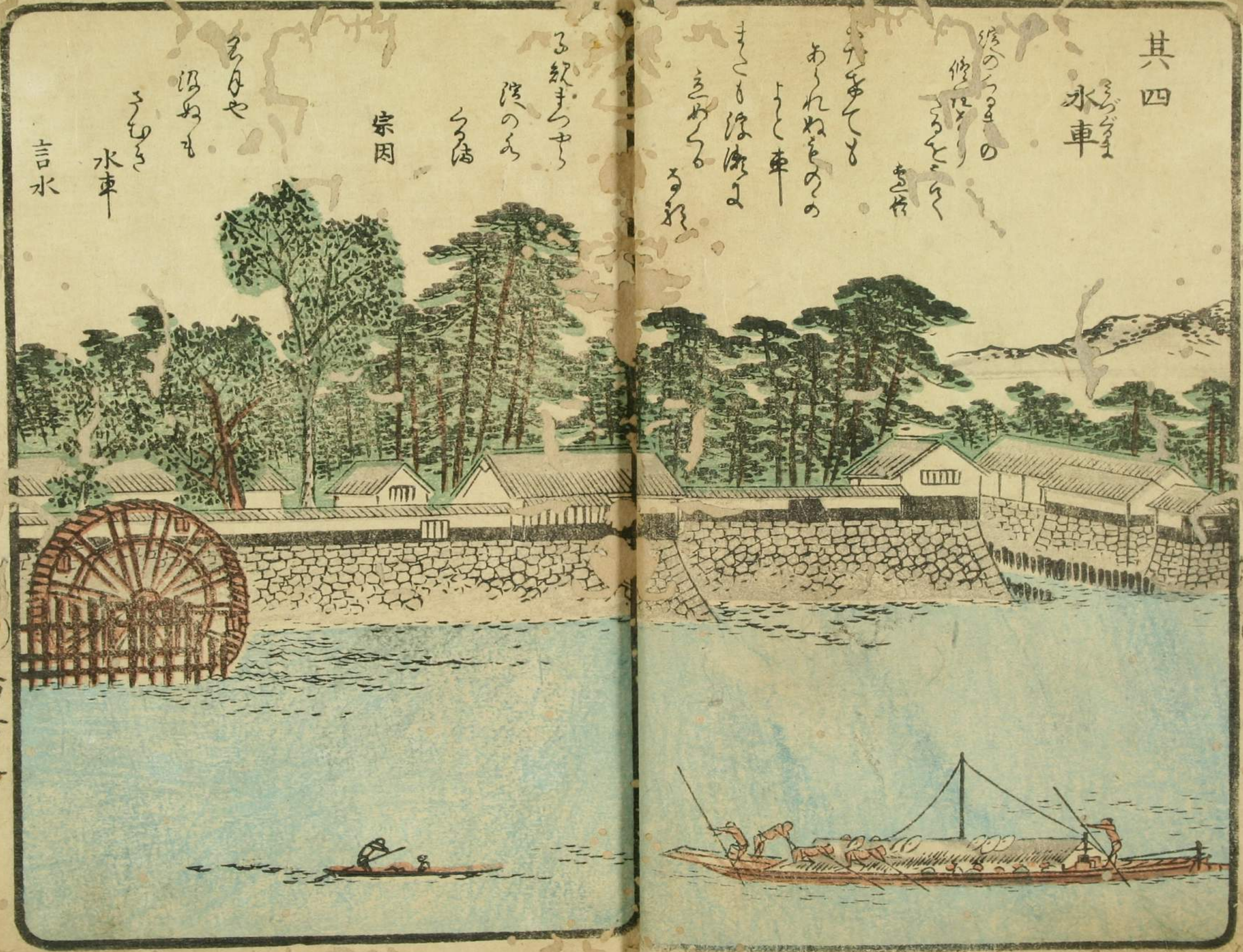
うま

うま

うま

水車

言水



其五

ろくぎん

ニツの櫓と

波の糸

惟然

鏡

灯さや

波のそ

鬼貫

水さや波の

波さ

あやめ草

順也



其六

小橋

橋のたもと三つ並にのりまき
 貴食店ありはたの人の
 かは高子一軒一軒と
 はりし船よせり上座を
 是より洛川の清流を
 つるさく金糸
 従ひの人まじらつて例は
 休見しつる客況も
 ちやんしつる客況も
 舟のよたふしのさ
 柱舟のたもとに
 ひらて



舟のたもとに
 柱舟のたもとに
 舟のたもとに
 舟のたもとに
 舟のたもとに

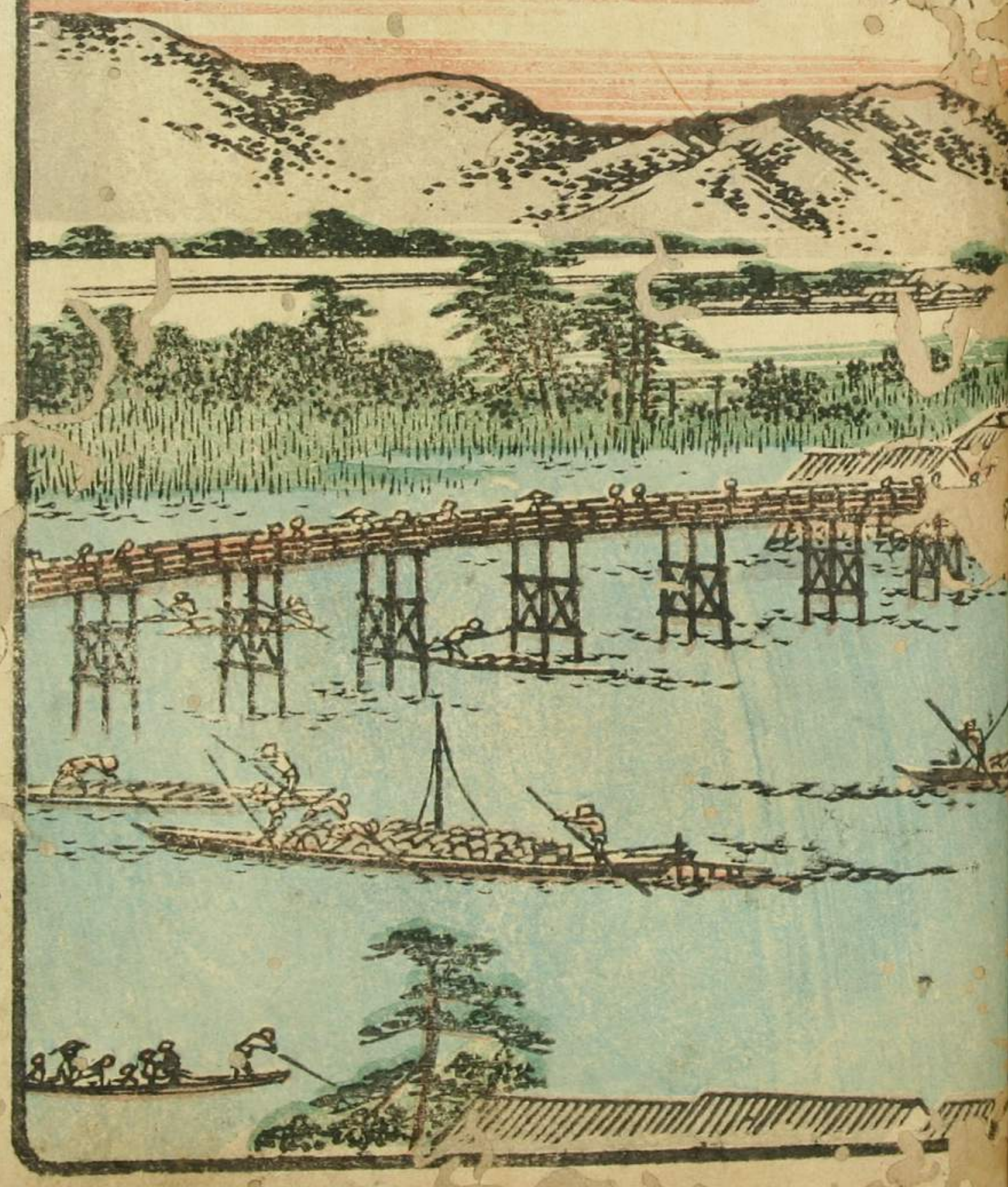
橋のたもと

舟のたもと

舟のたもと

舟のたもと

千山



新吉

夏かき道き絶ね号舟のやの里の雪の下

有家

新勅

朝戸明く伏見の里とちびれが赤いせむの河波

俊成

此余野の沢田あど放人の和歌多し尚名所旧蹟あり有とらんも夏しげれが

こしと畧しと樹乃のかこしとあるあつてそ一二とあるの

肥後橋

伏見の入口下三橋より西渡田より長十五間半京橋より着岸の登舟此川より入る

三栖社御旅所

肥後橋の東詰より例祭九月十六日生土の神輿此所は渡御あり

住吉神社

肥後橋の東船大工町より宝藏院とれと守護に東濱より着岸の登舟舟此川より入る

今富橋

東濱より中書島より橋の長十八間幅一間六尺一寸此橋辺船着まくりとる

年中向鴻の壘と築くところ中書島の城とあり滅亡せり

辯財天社

中書島より本宮辯財天女の像弘法大師の作と例年六月廿五日祭れり此所の橋ひつらん

京橋

今富橋西詰の北の古の濱より北へ北詰と京橋町より橋の長二十二間此詰より御高札場より渡小橋より是まで水上凡五十間

當橋の辺より浪華より京師より上下の通船此石今井船或は傳道の荷

船木の船岸より夜とる昼とる出入の船と間断なく且都を通

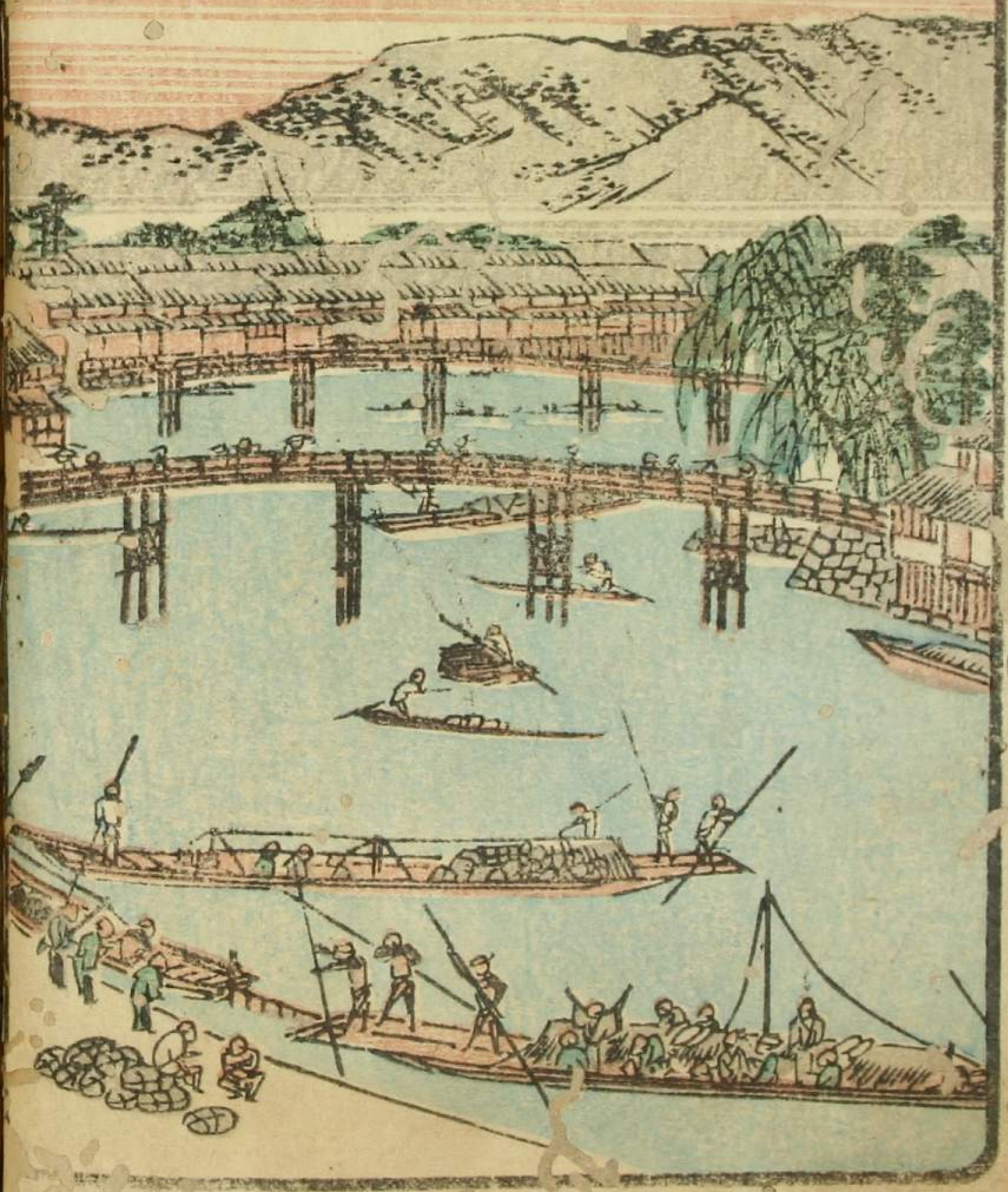
高瀬船宇治河下は紫船かぞく奉く喧く京摂の往返関東

上下の旅客群集の地とるが故に旅舎貨食家の多る所と言も更

より土産物の商家旅行用具の正店脚店軒とつらとる

伏見
京橋

菅田橋の北東北の
角に城壁の跡
城壁の跡
伏見の城の遺風
ありて一奇観
なり



多合の船
もの
太事
袖彦



敗ぐされば船上りの老若下りの男女づれも船宿へ入るべきを
調ふ故に烟草揚枝紙の填菓子燻頭と申す童子街の両替青物
賣按摩按摩の療治人本堂修履の初進修立かきり入かきり此
末に敷きむ飲食とんぐ登足の上客られが下客迎ひよま
船頭りり暫しも静るるに皆此の賑ひなり

阿波橋

肥後橋の川より上番西へまある船宿のまある最まこり
橋の東に京街の通り西に横大路の道と出る道と云

蓬萊橋

京橋の上南浜町より中書島に架る橋の長さ三十二間幅二間此橋より
京街道の往還より上り下りの舟人よりあることあり

京師に到る各其勝手より同じくはと云

此橋條と北へ下板橋通に至り 右へりて墨染

深草と経る京へ入ると本街道と云 或は伏見池
又たへり下板橋と渡り

車道より北へ上り 是東洞院通して竹田池より西六条より趣く六杉桑屋の南の方
より西へりて竹田村より油小路よりつる足と西行田より入

御香宮

奉前宮前町の北側より所徳社の
本社祭神神功皇后 宿禰の女より

九所堂

拜殿の傍り 伊勢両宮 本社の後左右の
末社 本社の後

神炊殿 繪馬舎 本地堂

鳥居の内なるの間にあり 奉後人
神輿舎

賽石の 御香水

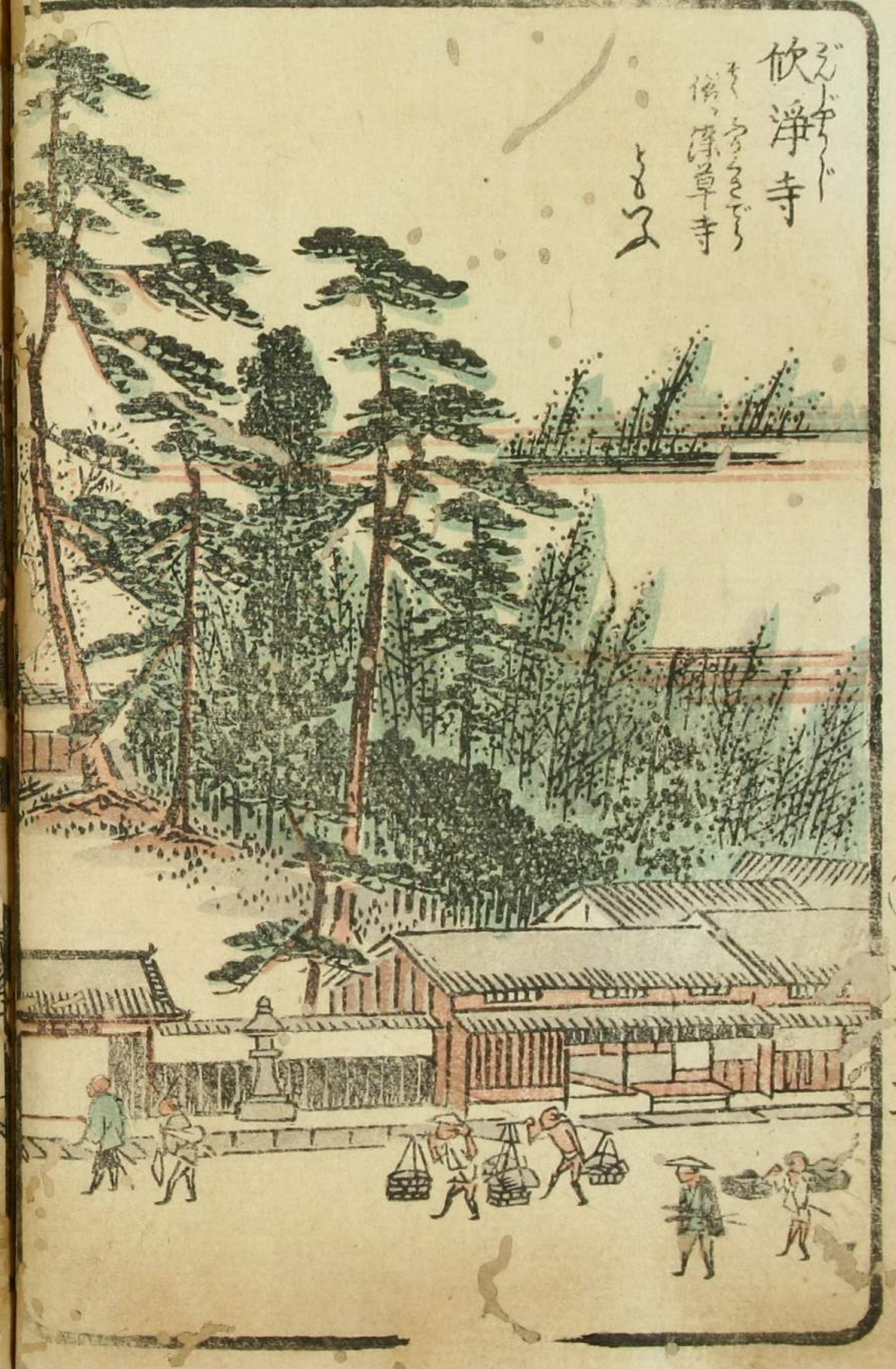
もろの傍り清水の傍り 伏見の橋中より
拜殿南門

飲淨寺

樹の東側あり 本堂阿弥陀佛 深草少将塚小野
浄土宗 太子十六宗の所



解
糸
言の巻
醒花



飲
浄
寺
後
深
草
寺
よ
又

すゝぞめ
墨 深
あけまじり
有馬 稻荷



梅あり
おまね
あうのうらう
咲ゆみづれぬの
書屋のくま
鶏成



墨深の長と世の元蓋坊とせられたりてきり

墨深寺 同前南側より 當寺は往昔清和天皇降誕の地なり

祈のり大相國志仁公の建まり 負觀寺の旧地より慶長の頃六方丈

書西 秀吉公も所成あり 祈より又什室は豊太閤の

衣冠の画影あり長谷川等伯の筆に新條の上より秀吉公自筆の

和歌あり 太閤これとて新條は用ひまひり

あられとて香とて新條の石の面新墨深あり

墨深様 堂あり古より後世よりありて

墨深の名は墨深様かむはしり 徳元 里

羊ころのや墨深様かむはしり 徳元

墨深の地名せよ名なり 今の伏見御所にて徳言貸合家建

つとて新條の声系竹の吉平けり有る 最徳

藤再 本殿三座中央舎人親王 東に早良親王 西に伊豫親王と

祭る 舎人親王天武天皇の皇子ありて天平宝字三年より追尊ありて 崇道書教皇帝

末社 八幡 大將軍 菅大臣 熊野 嚴島 諏訪 旗境 本社の東にあり 神功皇后三韓 征伐の後旗と埋めり

神樂殿 御供所 力石 馬場 例祭五月五日 神樂渡御

南谿

ひら

牛の

伏

や

梅



藤杜岐道



伏見
藤森社



深草里

産子の膏宮より神前産とて祭日の一橋より福荷藤のまき朝
走り馬のつれも軍陣の行粧とて天下平安の祈り
ひがし谷は山と限り西は竹田の里南は長原の山と限りこれ一箇の
勝地としていへり又此里の名産は土器瓦磁器の弁土細工の人形
多岐又蕃椒の粉園あるとて世に名きり

狂

人びと西のつれも花見んと群つて通るありと御成 天地根

日

らんらんよおひつそとせつそや依人の里のわん人形 春女

日

深草里のつれも花見んと群つて通るありと御成 去来

瑞光寺

瑞光寺の門ちりり大塚として周廻十間余あり
上人の草創法花道場
本尊釋迦佛 長二尺胎内五勝六腑あり
佛殿の西にう塚の上は竹とありえ改法所
元政墓 佛殿の西にう塚の上は竹とありえ改法所

わが深草里のつれも花見んと群つて通るありと御成 灯外

鳥の跡とてつれも花見んと群つて通るありと御成 乙由

昭宣公墳

昭宣公の墳 上は小村あり三十番神とあり

霞谷

北に宝塔寺の池より東に家院あり

おのつれも花見んと群つて通るありと御成 家隆

未本 草津とて夜の名とてつれも花見んと群つて通るありと御成 鎌倉大臣

極楽寺旧跡

瑞光寺宝塔寺の境地あり
保胤が極楽寺の賦は東山の勝地ありと賞せり

寶塔寺

瑞光寺の北にあり 本尊釋迦佛 多寶佛 高祖日蓮上人の像とあり

寶塔寺



廟（日像上人書）此下日蓮日朗の遺骨と收む
釋迦千射堂 七面明神社

七面明神の鳥居の額に元政の筆の例祭九月十九日
當寺の旧極楽寺として真言律と兼り延慶年中より法華道場と改し
濟世法王の額に千景和尚の筆

石峰禪寺 宝塔寺の北に隣 本尊釋迦佛 左右に聯り共ニ同筆なり
百丈山と号し

藥師堂 本堂の傍にあり本尊藥師佛 表門 額に即非の筆として
長守惠心僧都の作なり

當寺の黄檗の工世千景和尚の開基として黄檗退院の後此地よ
住職と近年安永の半より天明の初に至つて由寺の後山よ

石像の五百羅漢と造立し靈鷲山と爰よりつれ其形勢
中央釋迦牟尼佛 長凡六尺許 周より十六羅漢五百の大弟子

釋尊說法の体相と作る 羅漢の像の三尺許づれも一石一
尤雨露の覆るくして山中に充満し自ら苔むく其雅なること

言語に絶せり実は無双のまじり

稻荷神社 伏見御乃より此御及櫻橋より南に 本社第一宇迦御魂神第二
伏見を祀るより由社地に京兆尹に隸し 日神母 己上二座往古三峰

素戔嗚尊 宇迦御魂神の 御父なり 第三大市姫神 此二神と加へ併て五座

田中社 大己貴 四大神 五十猛命 大屋姫 此二神と加へ併て五座
弘長三年に告げり 狐津姫事十神

舞殿末社神庫 繒馬舎 鳥居木 魏々として 神官館 社僧の坊

樓門朱の玉垣きく 小推屋 禮殿

伏見

稻荷社

神門臨大道

元午辰靈辰

祀典踰羣社

三燈福萬春

楓杉青錦地

更宜吟望人

祇園瑜





天孫降臨

奥も
よく明る

編み山

草

軒つらつとさうや 都鄙の誌 間新なり 就中毎本 二ノイネニ

日 和銅年間 例よとく 神事とぬり 其前日より 遠近の貴

賤群 糸の皇都 第一の堀ひるの 例もあつ 四月上の卯の日として

三月二の午の日 神輿五基九條の 御銘所 渡御なり 俗 卯出祭

卯の日まは 神輿五基九條の 御銘所 渡御なり 俗 卯出祭

前後に供奉し 神具雲のてく 列を魏々溜々として 壯麗

なる 祭式なり 其結構法 人目とあはれりやせり

東福寺 伏見街道の東傍にあり 惠日寺 本尊釋迦牟尼佛 大佛なり

号に禪宗濟家五山の第四なり

越士觀音 虛六五楹 各座 檀の四隅の四天王東西の殿 釋天

及び達磨大師并百丈禪師臨濟禪師開山國師等の像の 佛殿の

釈音十八天衆と 法堂 佛殿の 選佛場 仏殿の 方丈 法堂の 傳衣閣

開山庫 其餘東司鎮守社十三層の石塔鐘樓庫裏

浴室山門 彌々として伽藍の美觀言語に絶せり 通天橋の法

堂より祖堂へ通路の流溪に架せる橋下の洗玉礫と号し

左右の崖へ悉く楓林として秋の季に紅錦と浪を

如く 地よりさる程は文人墨客の

賦一歌と詠 懐は出べ都下 男女打群 酒宴を催し

夕陽に争ふ十月十六日の岡山忌 聖一國師 かくて世俗此日と辨當

収と稱し 觀楓と号し 遊糸と号し 文二月十四日

十五日の佛殿に涅槃像の大幅 兆殿司 と懸く 詣人小縦觀

す 遠客これと号し 群集は

涅槃會や東福寺の帆と号して

岡山忌と号し 苗主の稻荷山 圓ノ

三之橋 東福寺の境外伏見街道に有 三之橋 同御及三の境外九八町の間に三の橋

流れ洗玉礫より出ぬ

福寺
 通天橋
 福裏
 村
 辨石
 信徳



東福寺小門前伏見街北二町余三つり水源新熊野社のつら谷より
少右三橋より編れぬ末は是より西の方より加茂川入

ひく時雨一二れくく乃水望を 其角

子規一二れの格の秋あけくも 其角

龍尾社 一の格の末傍にあり 拜殿馬舎末社神樂藏あり近年再営あり本社及び
拜殿つら美観あり境内ニ三乗の楓あり是所謂真の楓樹なり

大佛殿方廣寺 同穴見樹名のゆかり寛政十年七月雷火あり焼亡し今其礎石のみ
存り百分の一の遺像再建あり又近年大像の半身成就し假堂あり

當寺ハ往昔天正十四年豊臣秀吉公の御建立より本尊ハ廬舎

那佛の座像長九間四尺五寸巾十三間二尺四寸後光の高十八間五尺

聖の廻士五間佛殿ハ西向より西共七間五尺五寸南北十五間貳尺

柵高一丈五間柱數九十二本言事柱五尺許廻廊 南九百共間 高二丈

二王門 十五間二尺五寸 高十間二尺余剛力士の長一丈四尺狛犬高七尺南門 南六尺
六間七尺

棟高五間撞鐘堂四間四方柱數十二本鐘 高丈四尺指し 堂前二建り
九尺三寸重九寸

石燈爐より列國諸候の名と刻む佛殿の敷石又正面石垣の大石より

國々出陣の名或ハ諸候の紋野あり廻廊の外より櫓の系と交えて

徳より慶長元年閏七月十二日地震よりより佛像と崩れ

秀吉公其後信州善光寺の弥勒佛と近へ安置り同二年八月善光寺

佛座同三年又大像と造りて年燒失此後ハ銅像と摸り然りハ金摸り

大佛門前

耳塚

納言時葉小止
昆盧殿昨土饅頭
雲關宛恨維林月
瀉送凱歌馬嶋舟
古薜兩穿聲微底
孤墳草翠色含愁
偏憐京觀非魂宅
重結鄉音不可求

餘易

耳塚

蚊のき

声も表さる

丸士

耳塚

まじり声

つれ郭公

柳亭

東本願寺



大佛もちや

大佛表門



大像より出火して佛殿のりは同十五年秀頼公ありて再宮
あり寛文二年木尊銅像と改めり木像より北山浄住ふれと
彫刻は太閤秀吉公の石塔婆の佛殿の南より豊國社荒廢の後
是と宮しより塔前の石燈燼より慶長十年九月より

蓮華王院三十三間堂 大佛殿の
人皇七十九代崇徳院御宇天治元年鳥羽
上皇の本願よりて建立ありて手観音千体と安坐し得長壽院

と号し其後又後白河院長寛二年御願よりて建立ありて新
と号し其後又後白河院長寛二年御願よりて建立ありて新
蓮華王院と号し其後又後白河院長寛二年御願よりて建立ありて新

細喜の座傍より長八尺康座の作り二十八部衆ありて
置の千手千體の堂内の尤右の座に運慶法慶のあはれり堂を

東向 南北六間一尺四寸六分東西八間三尺
棟高六間一尺六寸 近世諸士此堂に於て
弓術の矢教と試み

耳塚 正面三門の
文禄元年朝鮮征伐の時小西行长加藤清正と大将
数る敵兵と討取首と日本へ渡さん事益々れが斬斬して送り

唐破風作の額標版の正水の
大佛殿建立の時より此落とあり賣弘のり
唐破風作の額標版の正水の

大佛北門前馬町とある趣き大佛に至る御所あり是と信谷城と

山科郷御陵あり日皇御末裔人出令これより向ふ

經信忠信石塔

馬町の小側民家のうちあり石の大塔二基あり信云
永仁三年二月二十日主法西云又一基ハ後あり

山城志云元在六条坊門松屋町大安寺寺廢後石塔于此たぐり

佐藤兄弟の事其證あり

右の所よりある谷城の邊より下これ同一

三嶋神社

衆人群衆の當所の生より産子ハ二ハと禁じ喰ふことあり

祭神三座

大山祇神 木花開姫
岩長姫ホのこ祓あり

燈籠堂古蹟

正林寺の西の方人家の北に谷あり是と小松谷と云此所小松内大臣
重盛公の山莊あり見燈籠の跡あり

源平盛衰記云大臣常二居あり四方は四十八回を照らしたる

十二光佛と一体づ立ててあり其前毎に常燈と燃せしむべ

四十八の燈籠あり故に此大臣は異名に燈籠の大臣とぞ申さる云

斯くの如く此小松谷より山莊に於ての事あり

惠空上人あり

馬町の東より小松谷より浄土宗開基ハ

本堂

殿舎づつて南向あり此池あり月滿禪定兼實公の旧跡

中興の圓光大師の位と安あり此余阿弥陀堂洞山堂鐘樓經藏方丈庫裏

鎮守樓門ホ巍々たり兼実公の所あり時小松殿と号せしむる

法然上人此殿の御堂あり
黒谷傳記に見へり

玉章地藏堂 小坂谷の末にあり樹木の茂るに玉章の像あり
傳 尊像の小野小町の作なり此人顔色をくびる事と以て深田男
如く老後愛執い罪と悲人が滅罪のち自ら此像を作し
其の書と集めて腹内に藏す又玉章の地蔵と号するなり
昔不道者わつと腹内に秘書ありと傳へ聞くとこれと採んしめ
此像の後と破ると後典太閤 北政所の右幸小野通の
可像と信じて破損と祈ひ自ら張る彩色ととれり

内長三尺許の石の五輪の銘と慈眼の妙なり年月は詳なり
又一説と深草少将玉章と此の地蔵尊に奉祀して小野小町と相逢
の縁と祈るといふに是なる哉
玉章地藏の東藩谷街のあり延暦二十一年沼田基と
立徳長三尺余 要石 客殿の庭中ニあり一説と六条院
の所建立し

高倉院御陵 右本堂の北半町許あり山の内に二間半四方石階と積上り
帝御愛樹の丹楓を奉る傍にあり

霧のまじり山の紅葉を奉る傍にあり

小宮局墓

同陵の左の方... 向倉帝の御寵愛他... 横町中納言の女あり妻くハ源平盛衰記に見

高倉帝の愛とを給ひ余風... 尚此地... 丹楓多あり

錦浦と晒け如く眺望... 美観あり

東三町の間の通称... 古此所... 寺院有

後土御門院皇子増仁僧都と潘谷宮と号け

元慶寺

北花山潘谷街道の北の辺... 天台宗近世禪宗と改む

本尊薬師佛

座像七寸僧正... 佛慈見師の作

僧正遍照像

自作坐像... 俗姓ハ良峯宗貞

花山法白像

佛自作共... 湯成帝の御願して貞觀十一丁

盤と草創し元と配して元慶寺とす

遍照墳

元慶寺の南二町斗氏家の西田間... 柿樹数株あり

東山寺

元慶寺の奥より禪宗... 迦佛座... 五寸開基ハ大円宝鑑

阿弥陀堂

元慶寺の南... 座像四尺許阿弥陀峯阿弥陀堂

元慶寺の南... 禪宗曹洞派中興ハ加列金沢大乗寺四十一世祖

一面觀世音

長二尺服士ハ愛深明王不動の両尊と号け... 花山法皇西国三十三所の灵跡

上人發塔の師... 其發塔の觀者

其發塔の觀者... 其發塔の觀者

栗田口日岡より来た大津を乃藩谷越と此よりつよむる
 屋 向大津御乃一條よりむる所此を彼方とす
 以上大佛馬町より此所まで藩谷越の左右あり

伏見街道と直上り五條橋建仁寺町四條通繩手
 三條通に至る此南北の御乃と大和大路とより下る俗
 伏見御乃より三條通より北へは東へ白川橋より栗田口
 蹴上日岡と歴々追分より津和野より街道之西へ洛中
 の繁花を街巷の結構往來の賑ひの言も尽しがごとし且洛中
 以外の所御乃の勝計ふべし都名所番會と聞し知べし



岸一覽登船下之卷終

編著 浪蒼 曉晴翁

畫圖 全 案川羊山

備書 帝都 鎌田醉翁

曉晴翁著

宇治川兩岸一覽 中本全貳冊

松川羊山画

追刻

萬延元年庚申季夏再刻

發兌

江戸日本橋通一町目 須原屋茂兵衛

勢州津八幡町一町目 丁子屋清 七

大坂心齋橋安堂寺町 秋田屋太右衛門

同心齋橋南久寶寺町 伊丹屋善兵衛

同心齋橋北久太郎町 河内屋喜兵衛

同心齋橋北久室寺町 敦賀屋彦 七

京都三條通堀町西入町 出雲寺文次郎

同心齋橋北久室寺町 丁子屋耕文堂

同心齋橋北久室寺町 丁子屋源次郎

書林

